

阪大発VBの創晶

創薬支援サービス強化

たんばく質 PE と業務提携 生産効率化

大阪大学発ベンチャーの創晶（大阪府中央区、安達宏昭社長、06・6877・5659）は、たんばく質の生産、精製から結晶化、X線構造解析までを一括受注するワンストップサービスを強化する。このため新たにプロテイン・エクスプレス（PE、千葉市中央区、大滝義博社長、043・202・5755）と業務提携、さまざまな手法を用いたたんばく質の生産が可能になった。創薬支援サービスとして製薬会社を中心に売り込み、年に数件の受注を目指す。

独自の結晶化技術を持つ創晶は2008年、片倉工業と業務提携し、ワンストップサービスを始めた。片倉工業はカイコとウイルスを利用したたんばく質の生産で強みを持つ。たんばく質の生産手法を安価に製造する技術もある。たんばく質の生産手法にはそれぞれ、特徴があるが、今回の提携により、たんばく質の種類に

一方、たんばく質発現に特化したベンチャーのPEはたんばく質の生産に大腸菌やブレビスという菌、動物細胞を利用するなど、さまざまな手法を手がける。

またX線構造解析を完了するまでに必要な10μg単位の精製たんばく質

に応じて効率的な生産手法を選んだり、比較できるようになり、製薬会社などのニーズにより柔軟に対応できる。

プロテイン・エクスプレスはたんばく質を生産する際、狙った位置にヨードチロシンという人工アミノ酸を導入する新技術も手がける。